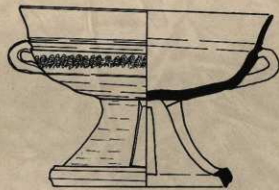




福部村埋蔵文化財調査報告書第8集

鳥取県岩美郡福部村

# 海士23・24号墳発掘調査報告書



1990.3

福部村教育委員会

海士23・24号墳発掘調査報告書

九九〇・三

鳥取県岩美郡福部村教育委員会

## 序 文

福部村には、古くから埋蔵文化財の存在が知られており、近年の発掘調査では、多くの貴重な資料が報告されています。特に遺跡の分布調査では未調査の部分も多く残しているものの100基以上の古墳が確認されており、貴重な文化遺産として後世まで保護すべく使命を痛感しています。

福部村における発掘調査は、そのほとんどが開発に伴うもので、海上23・24号古墳の発掘調査も文化財保護を最優先に考えましたが、福部村では村民グラウンド建設の有効候補地は限定され、やむを得ず記録保存という事態になりました。

今回の発掘調査では、その成果として古墳時代先住民の埋葬に至る数多くの資料が提供されましたが、福部村内には多くの遺跡・古墳が残されており、これらの貴重な文化遺産を今後どう保護して行くのか検討すべき良い機会でもあったと思います。

終りに、今回の発掘調査を実施するにあたり、鳥取県教育委員会をはじめ、関係各位の多大なるご指導、ご協力に対し深甚なる感謝を捧げるとともに、発掘調査に従事していただいた皆様に対し、厚くお礼を申しあげ発刊の挨拶いたします。

平成2年3月

福部村教育委員会

教育長老 門辰生

## 例 言

- 1 本書は、福部村民グランド建設事業に伴い、福部村教育委員会が発掘調査を実施した海土23・24号古墳発掘調査報告書である。
- 2 本古墳は、鳥取県岩美郡福部村大字海土342-2外に所在する。
- 3 調査は、福部村教育委員会が調査主体となり、1981年9月22日から1981年11月16日までを現地調査、翌年3月31日で室内整理作業を完了した。
- 4 本書に掲載の地形図のうち挿図-1は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
- 5 本書に使用した挿図の座標・方位は磁北であり、標高は、東京湾平均潮位を基準としている。
- 6 本書の執筆は、鳥取県埋蔵文化財センターの協力のもとに松下利秀が執筆・編集した。
- 7 出土遺物・図面・写真等の整理は、調査員と作業員が鳥取県埋蔵文化財センターの指導により同センターで行った。
- 8 出土遺物、実測図等は、福部村教育委員会で保管している。
- 9 発掘調査に際し、現地調査及び報告書の作成にあたって、地元海土地区より多大なるご協力をいただき、鳥取県教育委員会の亀井照人氏には、現地にてご指導をいただいた。記して感謝します。

## 発掘調査の組織

調査団長	河口 安信 (福部村教育委員会教育長) 1986年まで
＊	老門 辰生 ( )
調査指導	清水 真一 (鳥取県教育委員会文化財主事)
＊	田中 精夫 ( )
調査主任	松下 利秀
調査員	長岡 充展
作業員	井上富七子 岸本美津子 中川登美枝 中原 健司 難波志津枝 浜本かず江 浜本 愛子 林 ユリ子 松本 ふき 松村美佐江 森川 繁子 村中 訓子 安田ちえ子 安田登美恵 山沢多鶴子 山根 栄子 山根富美枝
事務担当	谷岡 陽・谷本 俊一

## 目 次

第I章 位置と環境 .....	1
第II章 調査の概要 .....	7
第1節 海士23号墳について .....	7
第2節 海士24号墳について .....	14
図 版 .....	23

## 挿 図 目 次

挿図-1 福部村遺跡分布図 .....	3~4
挿図-2 海士23・24号墳地形測量並びにトレンチ分布図 .....	5~6
挿図-3 海士23号墳墳丘実測図 .....	9~10
挿図-4 海士23号墳周溝南部の断面実測図 .....	9~10
挿図-5 海士23号墳埋葬主体部遺構図 .....	11
挿図-6 海士23号墳出土遺物実測図(1) .....	12
挿図-7 海士23号墳出土遺物実測図(2) .....	13
挿図-8 海士24号墳墳丘実測図 .....	15~16
挿図-9 海士24号墳埋葬主体部遺構図 .....	17
挿図-10 海士24号墳出土遺物実測図(1) .....	18
挿図-11 海士24号墳出土遺物実測図(2) .....	19
挿図-12 海士24号墳出土遺物実測図(3) .....	21

## 表 目 次

表-1 海士23号墳出土遺物一覧表(1) .....	8
表-2 海士23号墳出土遺物一覧表(2) .....	11
表-3 海士24号墳出土遺物一覧表(1) .....	19
表-4 海士24号墳出土遺物一覧表(2) .....	20
表-5 海士24号墳出土遺物一覧表(3) .....	22

## 図 版 目 次

図版-1	調査地遠景 .....	23
図版-2	海士23号墳(1) .....	24
図版-3	海士23号墳(2) .....	25
図版-4	海士23号墳(3) .....	26
図版-5	海士23号墳(4) .....	27
図版-6	海士24号墳(1) .....	28
図版-7	海士24号墳(2) .....	29
図版-8	海士24号墳(3) .....	30
図版-9	海士24号墳(4) .....	31
図版-10	海士24号墳(5) .....	32

## 第 I 章 位置と環境

海士古墳群は、いわゆる鳥取砂丘の東部に存在する福部砂丘の後背地に位置して汽水性に潟湖を形成していた湯山池・細川池に面する北向き斜面の丘陵地に位置している。

福部砂丘をやや細かく見ると、稜集落背後の古砂丘と直浪遺跡背後から東北東走向する新砂丘Ⅰ、そして浜潟山から東北東走向する新砂丘Ⅱの三列より成る横列砂丘により構成され、古砂丘は大山中部火山灰により被われる砂丘であり、新砂丘Ⅰはクロボクに被覆される砂丘であり、新砂丘Ⅱは歴史時代に形成された砂丘であろうと考えられる。従って、縄文遺跡として知られる直浪遺跡は当時すでに形成されていた潟湖（湯山池）に南面する遺跡であり、細川池周辺も含めてこの地域が古代から安定した経済基盤に支えられていた地域と推定される。福部村にはその他にも縄文遺跡として県内外に有名な粟谷遺跡が知られ、ここでは北白川下層Ⅱ式（縄文前期）から榎原式（縄文晩期）へ連続する各形式の土器群が確認されると同時に豊富な木製品や石器類そして動・植物遺体などと共にサメの歯牙を利用したペンダント或いは山陰地方で初見の製塩土器なども検出されている。

この湯山池・細川池は江戸末期に干拓がなされるまで潟湖としての特徴を存続していたと思われ、小泉友賢（1688）による『稻葉民談記』に載る古地図にもこれらの池が描かれており、「湯山にて塩を製す。細川・湯山の池にて鮎・小えび・菱を産す」という記述は注目に値する。また『三代実録』貞觀五年（863）十一月の条に「……因幡國宮新羅國人五十七人、米一着荒坂濱頭。……」とあり、当時の荒坂とは『延喜式』・『和名抄』の両方に載る法美郡にある式内社の荒坂神社の在った所を示すと考えられており、その旧所在地として塩見川河口より約3km遡った宮奥集落付近が比定されている。つまり外洋航海にも耐え得る五十七人を乗せる船とは単なる小舟ではなく、平安時代の細川池は日本海に通じる豊かな内湾を呈していた事と想像される。

また、『延喜式』・『和名抄』には法美郡服部郷に所在する式内社として服部神社を載せ、この神社の旧所在地は海士集落南方の丘陵地が比定されている。『稻葉民談記』は服部庄として南田村・粟谷村・八重原村・矢谷村・高江村・海士村・湯山村・細川村の八ヶ村を載せ、この服部庄はいわゆる荘園時代から鎌倉時代後半までその領家職を因幡國一の宮である宇倍神社が持っていた。そこで注目したいのは、宇倍神社つまり伊福部氏（法美郡々領）が古代よりこの地をその管轄下に置いていた事であり、『日本書紀』（成務紀）の記述に「五年の秋九月に、諸岡に令して、國郡に造長を立て、県邑に稲置を置つ。並びに盾矛を賜ひて表とす。則ち山河を隔てて國県を分ち……」とある事である。これと同種の指摘は『岩美町誌』でもなされ、『延喜式』に載る式内社高野神社は巨濃郡に数えられ『和名抄』には法美郡高野郷と載る。

つまり福部村はいつの頃からか巨濃郡に編入されるが、それ以前は法美郡の管轄下にあ

り、また岩美町の高野郷も同様である。これについての若干の解釈は『土ミツエ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（岩美町教委）に述べたが、法美郡（伊福部氏）にとって現在の岩美町岩常から福部村蔵見への高野坂ルートは重要な意味を有していたと思われる。

そこで村内の古墳について見ると先ず小札鉄留眉庇付冑・他を出した湯山6号墳を挙げる事が出来、この古墳は古墳時代中期の円墳（箱式石棺）で湯山池に面した湯山の低丘陵突端に位置している。次いで海土25号墳（前方後円墳）はその埋葬主体部の石棺に柱状石材を使用していた事で知られ、この柱状石材を使った石棺をもつ古墳として岩美町の新井51号墳・小畑8号墳・浦宮3号墳そして城崎町の小見塚古墳などが挙げられる。また横穴式石室の蔵見2号墳と蔵見3号墳は陶棺の破片を多量に出土した事で知られ、二上山南麓の高野坂ルートを越えた岩美町福石遺跡内でも須恵質切妻家型陶棺の出土が知られている。そして横穴式石室の中でも法美郡に特徴的と言われる中高式石室について見ると村内では今の処、高江6号墳・南田1号墳・蔵見2号墳・蔵見3号墳が知られ、概略的に塩見川流域と国府町との境界の上野山古墳群に見られる様に思われ、中高式石室と陶棺との関連は吉備との影響を考慮しつつ今後注目する必要がある。

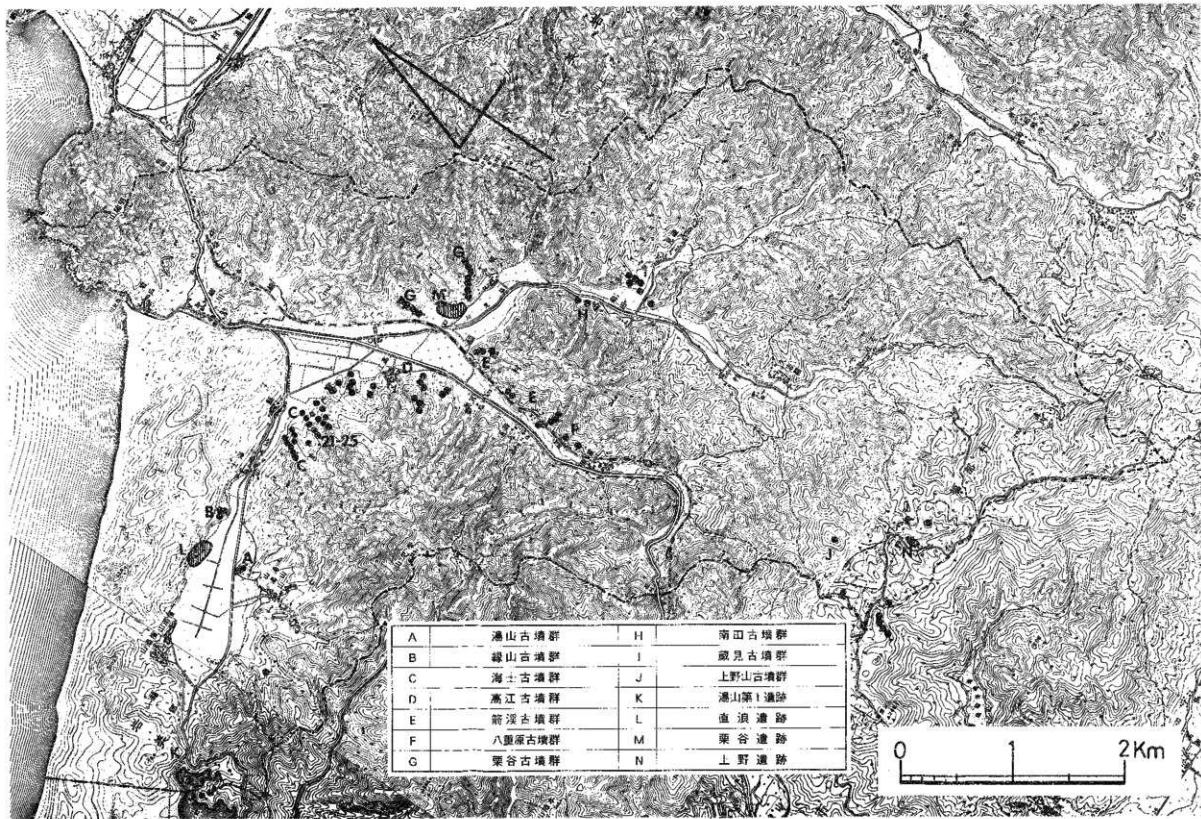
また、塩見川上流の地名に久志羅・先近が在り、『伊福部臣古志』に載る第25代久遲良、第27代国足（従四位上左衛門督）と関連深く思われ、単なる偶然とは思われない。

つまり、湯山6号墳の被葬者を考える時にはその豊富な副葬品より海上交易に熟達した海部を考える事が出来、柱状石材を使用した石棺を有する古墳についても但馬との関連と共に海部の存在を推定させる様に思われる。また、中高式石室については伊福部氏の関与を想定する事ができ家型石棺・陶棺との関連で考えるべきであろう。そして服部庄・服部神社に眷属すれば服部氏の存在も無視する事が出来ない。従って福部村内の古墳群を概観する時、単一の在地豪族によるものとは考えられず、今回調査した海土24号墳の如くは古墳時代後期後半になっても横穴式石室を受容せず、木棺直葬の円墳を造営している。

最後に、福部村の古墳時代後期後半（六世紀後半）以後の社会を考える時には法美郡つまり伊福部氏の存在を無視して考える事は出来ない。伊福部氏は何故、その地形的境界を無視して現在の福部村をその管轄下である法美郡に置き得たのか。伊福部の抬頭からその勢力の衰退過程を追う事は福部村の歴史を考えるのみに止まらず、因幡国全体の歴史を究明する事となる。そしてその調査対象地域として村内の古墳群は極めて重要な鍵を握っていると言える。

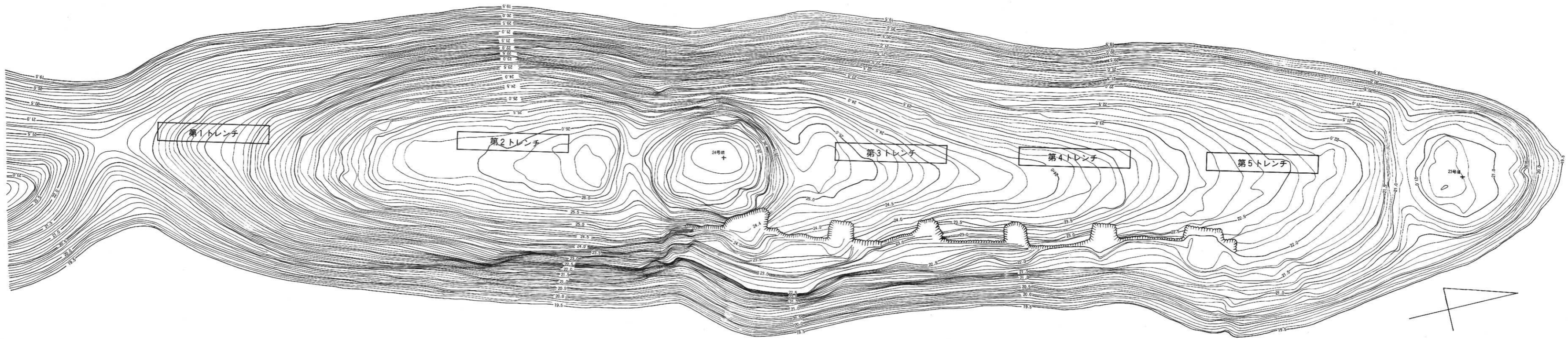
#### 参考文献

- (1) 福部村(1981)：福部村誌
- (2) 福部村教育委員会(1989)：粟谷遺跡発掘調査報告書Ⅱ
- (3) 鳥取県(1972)：鳥取県史・原始古代編
- (4) 八頭郷土文化研究会(1988)：新編八頭郡誌(一) ふるさとの歴史 上 坂本敬司：古代のふるさと
- (5) 下高瑞哉(1986)：中高天井をもつ横穴式石室について（鳥取大学論叢）

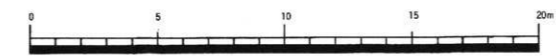


標圖-1 福部村遺跡分布圖





標図-2 海士23・24号墳地形測量並びにトレンチ分布図



## 第Ⅱ章 調査の概要

海士23・24号墳は、標高約20～26mのほぼ南北方向で孤立丘陵状を呈する丘陵尾根上を選地して造営されている。北方低位の水田面との比高は約15mと低く、東隣する丘陵の先端部には水田面と略同レベルで海士25号墳（前方後円墳）があり、西方の丘陵尾根上には密集して20数基の古墳が確認されている。

従って調査は、当初より確認されていた海士23号墳と24号墳の距離が約55mと離れ過ぎている為その間に3本のトレンチを設定すると同時に、海士24号墳の南方に2本のトレンチを設けて古墳の有無の確認作業を行なう事とした。また、その事前調査として縮尺100分の1で10cmコンターの地形測量を行なった。

5本のトレンチ調査では層厚約10cm程度の表土層の下位に直ちに地山火山灰が現れ、全てのトレンチで遺構・遺物の確認はされなかった。その為調査の主力を海士23・24号墳に置く事として、丘陵全面の表土剥ぎ作業は行なわなかった。以下、簡単に2基の古墳についての概略を記述する事とする。

### 第1節 海士23号墳について

海士23号墳は、標高約20mの丘陵先端部を選地しており径約10mの円墳である。墳丘の高さは約90cmを遺存し、埋葬主体部はそのほぼ中央に木棺を1基直葬する個人墓であった。

埋葬主体部は、その掘方規模260×110cmを測る隅丸長方形を呈し、その長軸方位はN-79°-Wを示す東西方向の埋葬主体部である。埋葬施設は見かけ上、隅丸長方形を呈しているが、その棺床規模175×52cmの小I痕を残さない木棺と考えられ、掘方の東端から約60cm離して西方寄りに設置されていた。

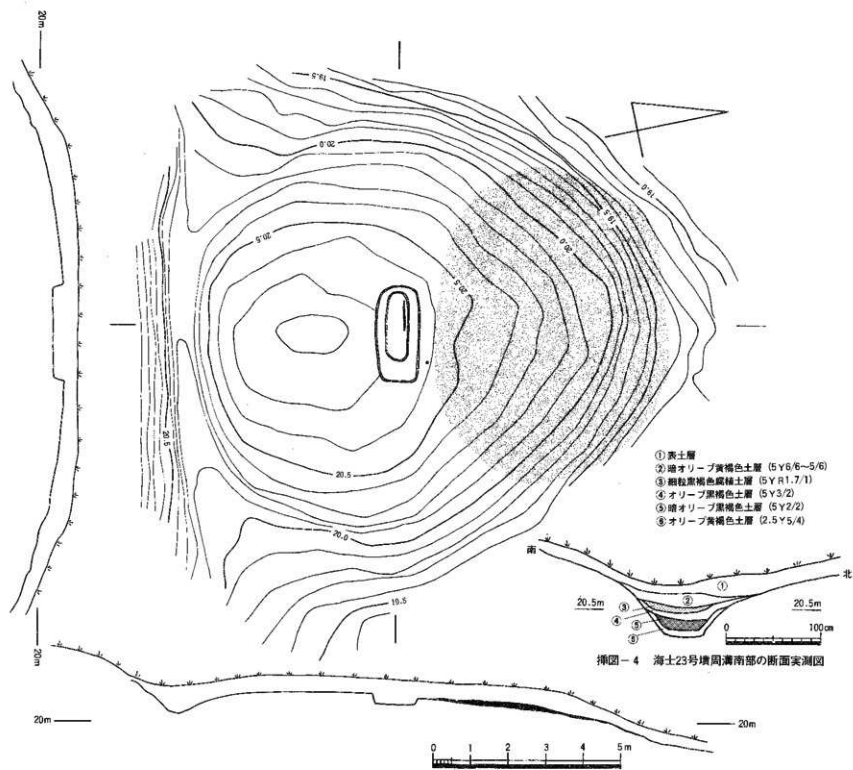
墳丘の保存状態は極めて悪く、墳頂部付近で約20cmの表土層盛土直下で暗黒褐色腐食土層の溝状遺構が検出された。その規模は235×60cmで中央部東寄りがやや膨れる長楕円形を呈し、いわゆる木棺の腐食により盛土が落ち込んだ為に出来ると考えられている遺構とはその性格が明らかに異なると判断される。周溝は南部のみが保存され、北部・東部・西部のそれは流出し遺存していなかった。南部周溝断面は、幅約120cm・深さ55cmを測り丸底状を呈し、断面観察により二層の暗色帯が確認される。

また墳丘の築造方法は、選地された後に地表が焼き払われ、その後墳丘南部を掘って盛土を行なったと考えられ、墳丘北部の盛土層内には炭片が見られたと同時に盛土下位には、焼却された旧地表が明瞭に残されていた。

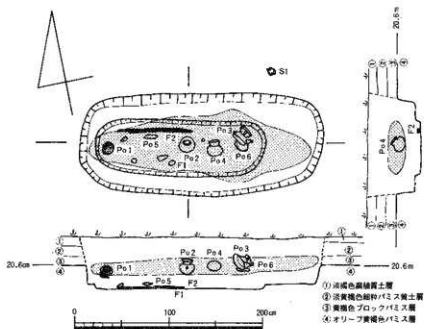
出土遺物は墓壇直上の溝状遺構より、須恵器の坏身・縁・高環を各1個体、土師器の壺(1)・高環(3)を検出し、棺内出土遺物として棺床よりやや上位で土師器の高環(2)を検出し、

標本番号	品名	産出地	出土状況	形状	表面状態	彫刻の特長	手法の特長	備考
Pol	耳環	口径12.4 高さ5.4 厚さ13.6 重さ1.3g	同様の古銅器 5.4 厚さ13.6 重さ1.3g	良好	外表面は 滑らかな 銅色を呈 示する。内 表面は黒 銅色を呈 示する。	外表面は中 央部が厚く 両端が薄 い。中央部 には縦溝が あり、両端 には横溝が あり、中央 部と両端部 の間には縦 溝が通る。	中央部は厚 く両端部は 薄い。中央 部には縦溝 があり、両 端部には横 溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	中央部は厚 く両端部は 薄い。中央 部には縦溝 があり、両 端部には横 溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。
Pol	腕輪	口径11.9 高さ11.9 厚さ6.4 重さ16.3	同様の古銅器 11.9 厚さ6.4 重さ16.3	良好	外表面は 滑らかな 銅色を呈 示する。内 表面は黒 銅色を呈 示する。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。
Pol	指輪	口径18.9 高さ12.2 厚さ5.8 重さ6.3 厚さ6.0	同様の古銅器 18.9 厚さ12.2 厚さ5.8 重さ6.3 厚さ6.0	良好	外表面は 滑らかな 銅色を呈 示する。内 表面は黒 銅色を呈 示する。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。
Pol	矢筈蓋 (中型)	口径13.9 高さ11.2 厚さ8.3 重さ14.7 厚さ4.8	同様の古銅器 13.9 厚さ11.2 厚さ8.3 重さ14.7 厚さ4.8	良好	外表面は 滑らかな 銅色を呈 示する。内 表面は黒 銅色を呈 示する。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。
Pol	高杯	口径18.9 高さ9.5 厚さ7.9 重さ6.2	同様の古銅器 18.9 厚さ9.5 厚さ7.9 重さ6.2	良好	外表面は 滑らかな 銅色を呈 示する。内 表面は黒 銅色を呈 示する。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。
Pol	高杯	口径13.9 高さ11.2 厚さ8.3 重さ14.7 厚さ4.8	同様の古銅器 13.9 厚さ11.2 厚さ8.3 重さ14.7 厚さ4.8	良好	外表面は 滑らかな 銅色を呈 示する。内 表面は黒 銅色を呈 示する。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。	口径がほぼ 均一で、厚 さは中央部 が厚く両端 が薄い。中 央部には縦 溝があり、 両端部には 横溝があり、 中央部と両 端部の間に は縦溝が通 る。

表-1 海士23号墳出土遺物一覧表(1)



標図-3 海士23号墳墳丘実測図



挿図-5 海士23号墳埋葬主体部遺構図

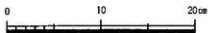
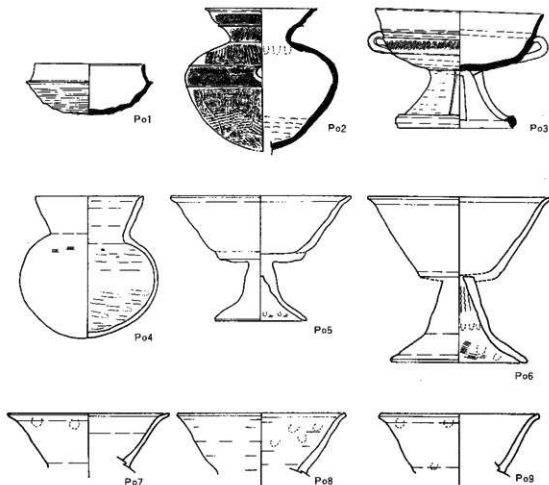
管理番号	品名	法量(cm)	出土状況	材質・色・位置	形状上の特徴	土層上の特徴	備考
Po7	土片 (片断)	直径	約3.0	赤褐色の土	赤褐色の土	墓室と外周部を区別する。外周部に直線状の溝が認められる。外周部は直線状の溝で構成されている。外周部の溝は、埋葬時に掘られたものである。外周部の溝は、埋葬時に掘られたものである。	赤色土層 (7.5)
		高さ	6.4	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
Po8	土片 (片断)	直径	11.3	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
		高さ	7.0	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
Po9	土片 (片断)	直径	17.0	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
		高さ	6.5	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
管理番号	品名	出土位置	法量その他の特徴				
F-1	土片 (片断)	直径	約3.0	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
		高さ	6.4	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
F-2	土片 (片断)	直径	約3.0	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
		高さ	6.4	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
S-1	土片 (片断)	直径	約3.0	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)
		高さ	6.4	赤褐色の土	赤褐色の土	赤褐色の土	赤色土層 (7.5)

表一 海士23号墳出土遺物一覽表(2)

棺床に接する如くに鉄器の直刀(1)がその鋒を東方に向けて出土し、棺床中央の南部寄りでは鉄鏃(1)が出土した。これらの出土状況は、溝状遺構より検出された遺物は供獻土器と考えられる物であり、棺内出土の物は副葬品と考えられる遺物である。

また溝状遺構より出土した脛には底部穿孔された可能性が認められ、高坏(土師器)は溝状遺構出土の3個体の内の2個体に脚が遺存しているが、棺内出土の高坏には副葬当初から既に脚が取り去られており人為的に破壊されたかの如く細片として検出された。

この古墳の築造時期は、須忠器がTK-23に比定される事より古墳時代中期後半(五世紀第3四半期頃)と考えられる。出土遺物に被葬者の土器枕として使用された物は見られ

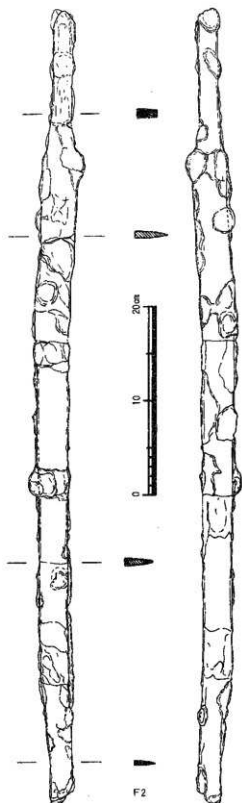
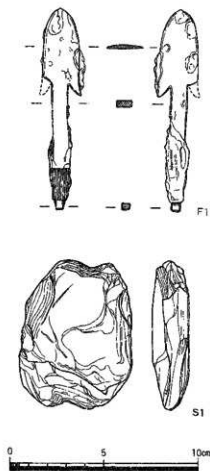


挿図-6 海士23号墳出土遺物実測図(1)

ないが、埋葬頭位は遺構・遺物の検出状況より東方と推定したい。

また、埋葬主体部の掘方から約20cm離れた北方より切目石錘が出土した。この石錘は古墳築造以前の旧地表より検出され、縄文時代晩期頃の物と思われる。

この海上23号墳の墳丘北部に、径約5mの円形プランの住居址状の遺構を感じたが、ビット状遺構の深さが極めて浅く、またそのレベルが不自然であった為に確定するには至らなかった。



挿図-7 海上23号墳出土遺物実測図(2)

## 第2節 海士24号墳について

海士24号墳は、標高25～25.9mで丘陵尾根上の最頂部を選地して造営されている。墳丘の保存状態は、その東部が後世の土砂採集により壊されてはいるものの比較的よく遺存しており、径約14m・高さ1.8mの円墳である。周溝は北部と南部に弧状に遺存し、西部と東部には確認されなかった。しかし、埋葬主体部の位置あるいは地形測量より東部にも周溝が巡っていた可能性が強く、いわゆる墳丘の山頂側を弧状に切断了たタイプのものではない。

墳丘の築造方法は、海士23号墳と同様に選地後に地表が焼き払われたものと判断され、墳丘の北部・東半部の盛土層直下に多量の炭片が認められる。その後、墳丘の南西部の地山を削り北東部へ盛り上げてある程度整形した後、南部の周溝を掘上げて墳丘全体が構築されたものと考えられる。

埋葬主体部は、墳丘の中央に1基が確認され、その掘方は規模440×190cmを測り隅丸長方形を呈し、その長軸方位はN-15°-Eを示す。埋葬施設は小口痕を残さない木棺と考えられ、その規模は196×75cmを測り、掘方の中央よりやや北部寄りに置かれていた。

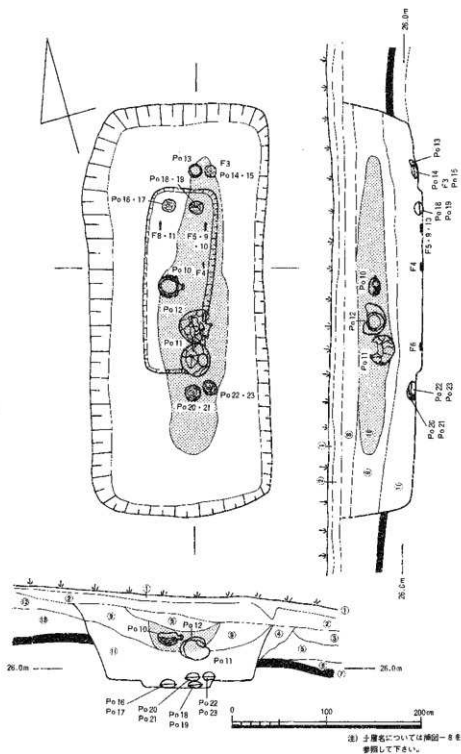
出土遺物は、墓壇直上の溝状遺構より須恵器の提瓶(1)・甕(2)が検出され、棺内副葬品として須恵器の坏身・坏蓋のセットを2セット、そして鉄器として刀子(1)・鏃(6)を認め、棺外副葬品として須恵器の坏身・坏蓋のセットを3セットと坏身(1)そしてPo14・15の坏身・坏蓋のセットに入れられ鈍の刃部片を密着した刀子(1)を検出した。

墓壇直上の溝状遺構より出土したPo11の甕には明瞭に底部穿孔の痕跡が認められ、しかもその底部穿孔された破片の一部を墳丘東部の盛土内より検出した。また、この底部穿孔の器壁断面を観察すると、その外縁は大きく内縁が小さくなっており、穿孔法が器壁の内面から外面に向けて施されたものと推定される。そして、殆ど完全に復元されたPo12の甕にもその底部の割れ方に底部穿孔の痕跡を認める事が出来る。これらの甕の遺存状態より、Po11の甕は墳丘構築中に底部穿孔されたものと考えられ、Po12の甕は墓壇直上の溝状遺構内に設置後に底部穿孔されたものと思われる。

また、挿図-11の坏身・坏蓋のセットは出土した時のセット関係をそのまま図化したものであり、型式・胎土・焼成等から確実にセットとして認められる物はPo16・17とPo18・19そしてPo22・23の3セットである。そしてPo13はPo20とセット関係になるものと思われる。これらの坏身・坏蓋で注目すべき事は、おそらく棺内で被葬者の土器枕として使われたであろうPo16・17とPo18・19がセットとして出土した事と同時に、これらの土器型式が異なる事である。Po13・14・15・18・19・20・21はTK-43に比定される物であり、Po16・17・22・23はTK-10に比定される物と思われる。



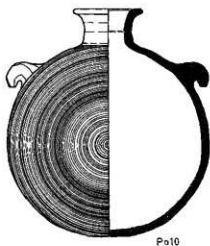




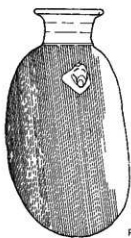
挿図-9 海士24号墳埋葬主体部遺構図

従って、これらの出土状況より土器枕として使用される土器は古式の土器が使われるとは限らず、土器型式の新旧は意識されていないと思われる。

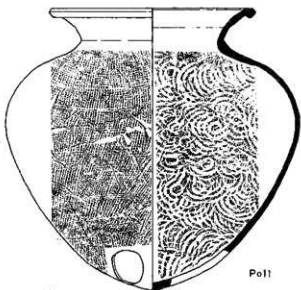
古墳築造の時期は、出土遺物より6世紀第3～4四半期と推定され、埋葬頭位は遺物の出土状況より北方と考えられる。



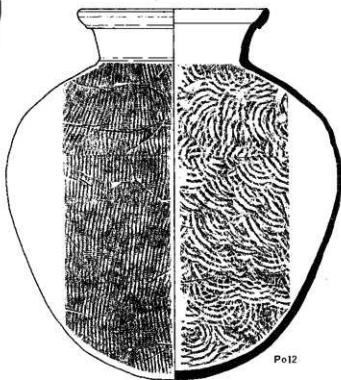
Po10



Po10

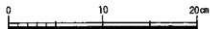


Po11



Po12

挿図-10 海士24号墳出土遺物実測図(1)







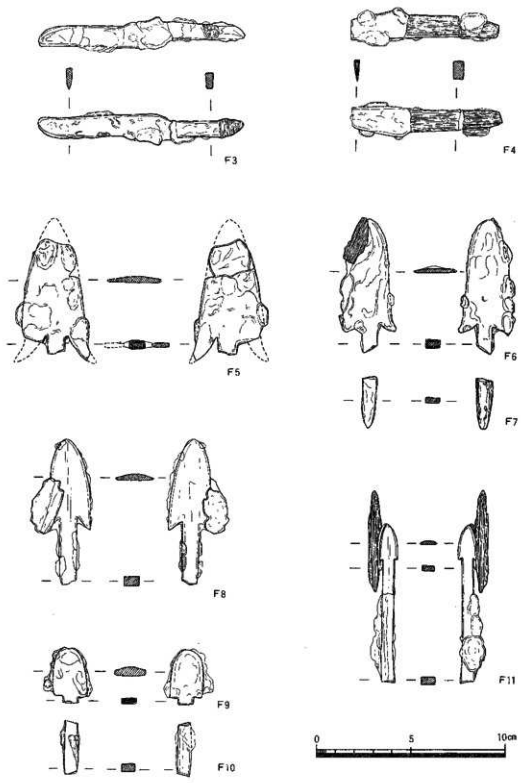


插图-12 海士24号墳出土遺物実測図(3)

整理番号	品名	材質	寸法	色	高さ	出所	形態上の特徴	上面上の特徴	備考	
P-01	杯	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	中央部のある半球部が内径15.0から内径16.0まで漸次拡大し、1層目の縁部に際して大きく中央部を有する。後の半径は内径15.0と見られ、内径中央部の中径17層目の縁部には灰褐色の、内周縁部は白色の、底面縁部は白色の、その境界は明確ではない。内周縁部には凹みが見られる。	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-01と P-02と なる。
P-02	杯	土	径13.2 高さ4.8 上より径 1.4	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径13.2の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径13.2の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-02と P-03と なる。
修理箇所	品名	材質	修理箇所の特徴							
P-04	土	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-04と P-05と なる。
P-05	土	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-05と P-06と なる。
P-06	土	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-06と P-07と なる。
P-07	土	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-07と P-08と なる。
P-08	土	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-08と P-09と なる。
P-09	土	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-09と P-10と なる。
P-10	土	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-10と P-11と なる。
P-11	土	土	径14.8 高さ4.6	灰褐色	青灰	外周 内周 底面	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	径14.8の 外周縁部 内周縁部 底面縁部	フナグロコトシ土質。外周縁部から縁部にかけて、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、その外周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、内周縁部はフナグロコトシ土質と見られ、底面縁部はフナグロコトシ土質と見られる。	P-11と P-12と なる。

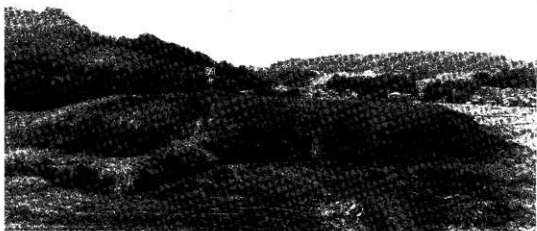
表-5 海士24号出土遺物一覧表(3)

---

圖 版 編

---

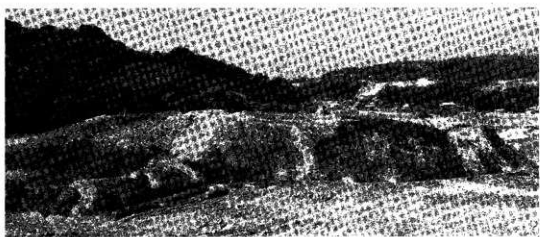




調査着手前の調査地（東方より）



調査中の調査地（東方より）

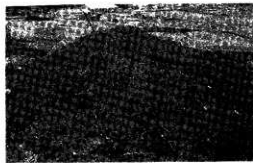


調査後の調査地（東方より）

図版 2 海士23号墳(1)



第3～5トレンチ (南方より)



調査前の23号墳 (南方より)



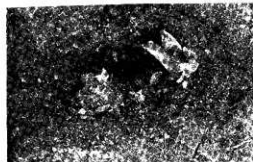
調査中の23号墳 (東方より)



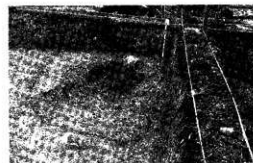
23号墳墓墳直上溝状遺構 (西方より)



Po3・6の出土状況 (南方より)



Po3・4・6の出土状況 (南方より)



主体部掘方検出と Po3 (東方より)



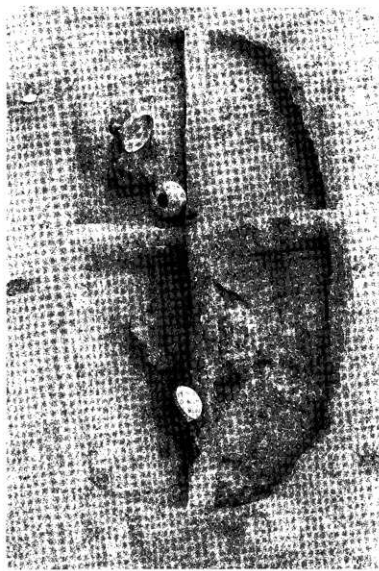
Po1の出土状況 (西方より)



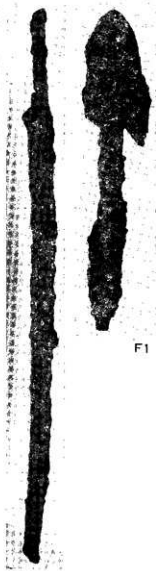
周溝南部土層断面(東方より)



主体部掘下げ中(北西方より)

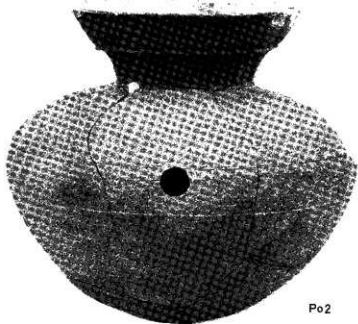


海士23号墳主体部(西方より)



F1

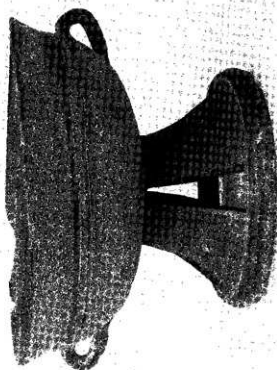
F2



Po2



Po1



Po3



Po4



Po5



Po6



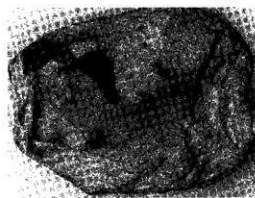
Po7



Po8



Po9

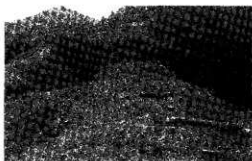


S1

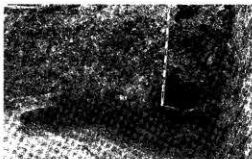


S1

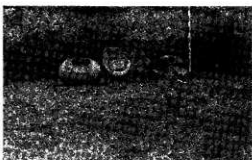
図版6 海士24号墳(1)



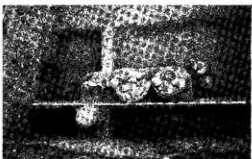
調査前の24号墳 (北方より)



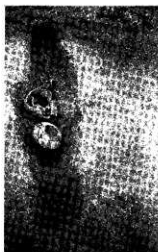
Po13(右)とPo15(左)の出土状況 (北方より)



溝状遺構内の供献土器 (Po10-11-12) (東方より)



Po10~12とPo20~23出土状況 (西方より)



24号墳墓墳直上の  
溝状遺構 (南方より)



Po10~12とPo20~23  
出土状況 (南方より)



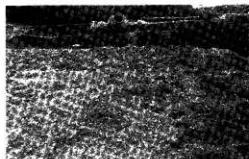
Po10~12とPo20~23出土状況 (東方より)



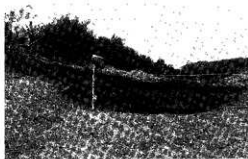
調査途中の  
24号墳主体部 (南方より)



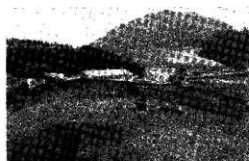
完掘状態の24号墳主体部 (南方より)



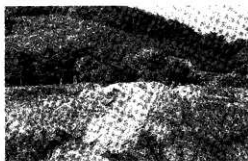
供献土器と棺外副葬土器 (東方より)



周溝北部土層断面 (東方より)



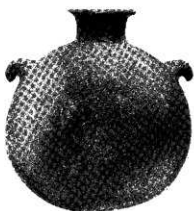
東西セクションベルト (盛土層) (南方より)



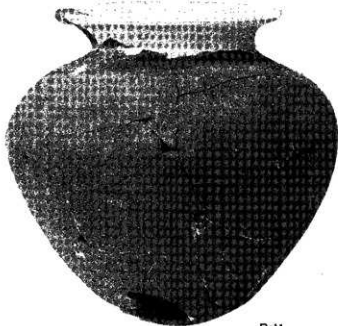
完掘後の24号墳遠景 (東方より)



Pol2



Pol0



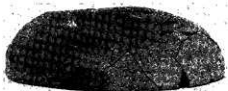
Pol1



Pol0



图版 9 海士24号填(4)



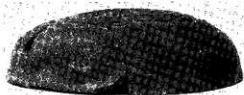
Po14



Po13



Po15



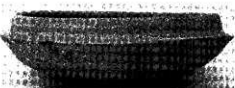
Po18



Po16



Po19



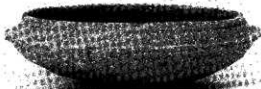
Po17



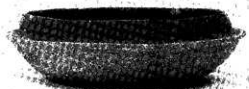
Po22



Po20



Po23



Po21



F3



F5



F8



F6



F9



F4



F7



F10



F11

---

福部村埋藏文化財調査報告書 第8集

海士23・24号墳発掘調査報告書

平成2年3月発行

編集 福部村教育委員会

〒689-01 鳥取県岩美郡福部村細川668

TEL (0857) 75-2111

印刷 綜合印刷出版株式会社

〒680 鳥取市西町1丁目215番地

TEL (0857) 23-0031

---